

【水の里の旅コンテスト2016 応募企画】

【学生部門】

名桜大学国際学群観光産業専攻（新垣研究室） 西田 光希

やんばるの自然と文化に触れる旅

～名護博物館見学と羽地ダム源流探検カヤックツアー～

観光地域：沖縄県名護市


【日程】	日帰り		
【実施時期】	通年		
【催行人員】	20名（最少催行人員：2名）	【お勧めする旅行者層】	アウトドア、レジャーに関心がある若者やシニア（ファミリー層も対応可）
【旅行代金】	7,100円 (大人1名)	【内 訳】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・名護さくらガイド（名護博物館「やんばるの生活と自然」学びのコース）1,500円 ・昼食代（沖縄そば等）600円 ・カヤック体験ガイド 5,000円 	
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>沖縄県内において現在も豊かな自然環境を誇る、「やんばる」と呼ばれる北部地域を舞台としたツアーです。沖縄県の「河川は、本州地域と比べて流域面積が小さく、琉球石灰岩質の土壌により雨水が地下に浸透してしまう等の理由から水不足に悩まされてきた地域です。雨水を貯水し生活用水を確保するために、ダムの建設が多く行われました。「やんばる」地域のダム周辺には現在も豊かな自然環境が残されており、近年では「ダムツーリズム」という形でダムを観光資源として活用するための検討が行われています。</p> <p>本ツアーでは、旅行者に学びと実体験を通して「やんばる」地域特有の里山の水辺環境に触れてもらい、環境意識の向上を図ることを目的としています。</p> <p>本ツアーでは午前中に地元ガイド（名護さくらガイド）の案内で名護博物館を見学します。名護博物館では「やんばる」地域でみられる淡水魚の飼育や里山の動物のはく製の展示、かつての生活の様子や民具などを見学します。展示物を地元ガイドの解説と合わせて見学することでより具体的な学びにつながります。</p> <p>午後からは羽地ダムに場所を移し、地元ガイドの案内でカヤックに乗りダムの源流を目指します。羽地ダムで水没した場所にはかつて集落があり、炭焼き釜跡や石垣跡などの遺跡がみられます。カヤックの到着地点となる支流の上流部には、半世紀以上前に使われていた旧道の橋にガジュマルの木の根がからみつく光景をみることができます。また、ダム周辺には亜熱帯特有の豊かな自然環境が色濃く残っており、こうした動植物をガイドの解説と合わせて観察します。羽地ダムでは、日本に2種類しか生息していない淡水生のクラゲの仲間や沖縄の清流域にしか生息していないリュウキュウハグロンボ等独特の水辺の生き物を見ることができます。午前中の博物館で見聞きした学びの内容と直結した実体験を午後のカヤックツアーの中で行うことで、より深みのある体験ができる企画となります。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<p>安全講習を受講した有資格のカヤックガイドによるカヤック体験の安全サポート。</p> <p>ツアー行程の全企画において保険に加入、地元ガイドが徹底サポートします。ファミリー層でも安心して参加できる行程となっています。</p>		<p>午前中に名護博物館で見聞きした「やんばる」地域特有の生活文化、自然を午後のカヤック体験の中で実際に体感することで、旅行者の地域への理解をより深めることができます。</p> <p>地域特有の生活文化や自然環境を地元ガイドの解説、現地での実体験を通して接することができます。従来型の沖縄観光よりも、地域の自然や歴史・文化を体験できる深い内容となっています。</p>	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① なぐまさあの会	カヤックの準備、ガイド	⑤	
② 名護さくらガイド	博物館及び周辺でのガイド	⑥	
③		⑦	
④		⑧	
【特記事項】	<p>当企画の午後開催予定であるカヤック体験については、本年度6月と9月にモニターツアーという形で実施している（それぞれ参加者は19名でありましたが、参加定員20名の枠に対し152名の申し込みがあった人気のツアーでした）。</p> <p>現段階において、午前に開催予定の名護さくらガイドによる名護博物館の案内とは別々に企画が催行されているが、今後これらをまとめた本企画の内容を検討予定です。</p>		
【催行実績】	有り		

【 行 程 表 】

1 日目	<p>10:00 名護博物館前駐車場に集合（各自集合）</p> <p>10:00～11:30 名護さくらガイド「名護博物館 やんばるの生活と自然 学びのコース」に参加 内容：名護博物館前→名護博物館周辺フクギ・程順則像→名護博物館→歴史・館内案内→1F（巨大集落パネル・展示室）→2F（人生儀礼・ピートゥー・サバニ・ジュゴン・山原の山・昆虫 etc） 〈http://www.nago-sakuraguide.jp/〉</p> <p>12:00～13:00 さくらガイドおすすめの地域の飲食店にて昼食（沖縄そば等）</p> <p>13:00～13:30 羽地ダムのカヤック出発地点まで移動（各自）</p> <p>13:30～16:30 羽地ダム源流域を目指すカヤック体験 内容：ダムの支流へ向かいカヌーを漕いで行く（往復約2.5キロのコース）。途中コース上で見られる炭焼き釜跡等の遺跡や亜熱帯特有の動植物を観察しをする。往復で3時間かけたのんびりとしたツアーである。ツアーでは、自然観察の他にカヤックを使ったレクリエーション（全員のカヤックで大きな筏を作り回転する等）をガイドの指導の下で体験できる。</p> <p>17:00 現地解散</p>
------	---

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など） 】

【名護博物館と羽地ダムの上空写真】	【 名護博物館の上空写真】	【 羽地ダムの上空写真 】
 <p>黄色マルが名護博物館、赤マルが羽地ダムの位置です。名護博物館は名護市街に位置しており、羽地ダムも名護市街地近辺にあります。 当ツアーでは、参加者それぞれがレンタカーで両地点を移動する予定です。名護博物館から羽地ダムまでの移動時間は、レンタカーで20分程になります。 【出典】：グーグルアースより</p>	 <p>黄色マルが名護博物館の位置です。名護博物館には駐車可能台数が15台あり、付近の駐車場も利用できます。 【出典】：グーグルアースより</p>	 <p>羽地ダム源流探検カヤックツアーの経路です。図の黄色マル地点から出発し、赤線をカヤックで移動して赤マル地点を目指します。詳細は添付資料内で説明しています。 【出典】：グーグルアースより</p>
【名護博物館】	【羽地ダム 観察できる動植物】	【羽地ダム】
 <p>名護博物館では展示物を身近に感じてもらうために、ケースを使用しない露出型展示を行っています。1階部分では、かつての沖縄における里山での暮らしと衣食住の文化等を展示。2階部分では地域の産業など、先人の知恵を学ぶことができます。他にも「やんばる」地域に生息する淡水魚の飼育や里山の動物のはく製等が展示されています。 【出典】：名護博物館 HP より http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3282.html</p>	 <p>名護さくらガイドは、地元住民の方が地域の暮らしや文化等のガイドを行っています。開催コースは全6種類ありますが、今回のツアーでは「名護博物館やんばるの生活と自然学びのコース」に参加します。名護博物館の展示物を見学しながら、「やんばる」地域の自然環境や文化についての解説を聞くことができ、学びが深まります。また、ガイドをする地域住民の方との交流をすることができます。 【出典】：名護さくらガイド HP より http://www.nago-sakuraguide.jp/course/course_b.html</p>	 <p>羽地ダムは名護市に位置し、別名「蔡温あけみお湖」の愛称で親しまれています。名護市街地に近い位置にありながら、「やんばる」地域特有の豊かな自然環境を有しています。毎年ゴールデンウィークには「羽地ダム鯉のぼり祭り」が開催され、多くの人で賑わいます。観光資源としての羽地ダムの今後の活用が検討されています。 【出典】：羽地ダム HP より http://www.dc.ogb.go.jp/toukan/dam/haneji_dam.html</p>

【羽地ダム源流探検カヤックツアー】	【羽地ダム 観察できる動植物】	【羽地ダム 遺跡】
		
<p>カヤックに乗って羽地ダムの源流域を目指します。往復距離約 2.5 キロのコースを約3時間かけてのんびりと漕ぎます。ツアーでは地元ガイドによる動植物の解説やカヤックを使ったレクリエーションを行います。亜熱帯特有の森林はまさにジャングルのように、水辺環境で観察できる動植物や遺跡をみながらの探検は非日常感が満載です。</p>	<p>羽地ダムでは、多くの種類の動植物を観察することができます。豊かな水辺環境には沖縄県の固有種であり源流域のみにしか生息しないリュウキュウハグロトンボやミズスマシ、ヨシノボリ等の生き物を見ることができます。また世界に 10 種、日本では2種類しか確認されていない淡水生のクラゲの仲間を湖面で観察できます。</p> <p>羽地ダム源流カヤックツアーでは、羽地ダムで観察できるこうした動植物を掲載したガイドブック（別途添付資料を参考）を参加者に配布し、ガイドブックを参考にしながら楽しむことができます。</p>	<p>羽地ダムで水没した場所にはかつて集落があり、現在も当時の生活の痕跡を見ることができます。山の木を伐りだし、木炭を生産するための炭焼き釜跡や民家の石垣の跡等があります。</p> <p>羽地ダム源流探検カヤックツアーの支流上流の到着地点付近には、半世紀以上に利用されていた旧道の橋が残されています。橋にはガジュマルの根が絡みつき時間の経過を感じることができます。馬車も通行していたという当時の生活の様子をこの橋から伺い知ることができます。</p>